

第 24 期第 2 回第二部役員会 議事要旨

日時：平成 30 年 6 月 4 日午後 4 時より午後 6 時

場所：日本学術会議 5-A (2) 会議室にて開催

参加者（敬称略）

石川冬木：第二部長 京都大学大学院生命科学研究科教授

丹下健：第二部幹事 東京大学大学院農学生命科学研究科長・教授

以上、第二部役員

磯部光章：第二部会員 榊原記念病院院長

遠藤玉夫：第二部会員 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所所長代理

小松浩子：第二部会員 慶應義塾大学看護医療学部教授、大学院健康マネジメント研究科教授

山脇成人：第二部会員 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学教授

萩田紀博：第三部会員 株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）知能ロボティクス研究所長

寶金清博：第二部会員 北海道大学病院長

石川部長、山脇会員は、スカイプで参加

石川部長、寶金会員、小松会員から、これまでの経緯の説明あり。

資料に基づき、厚労省の新オレンジプランを確認。

その後、これまで、日本学術会議が「高齢化」に関して発出してきた提言をレビュー

その後、フリー討論

それぞれの委員から、これまでの「高齢化」「認知症」への関わりを紹介

全体としての結論

1) 新オレンジプランに対して日本学術会議がアカデミアとして、建設的な提言をまとめることが望ましい

2) 具体的には、

- ① MCI (Mild Cognitive Impairment) を取り上げる
- ② ICT や Robotics、AI などの技術によるサポートを考える
- ③ 認知症患者、認知症の家族や介護者など当事者の視点を盛り込む
- ④ Centenarian（センチネリアン）の課題は今回の認知症委員会とは別で取り扱うべき
- ⑤ 医療倫理、医療経済的な側面も考慮すべきであるが、まずは、Positive message を

などの意見に集約された。

具体的には、委員会で上記個々の課題の **Expert** からの意見を聴取して、全体を俯瞰する提言にまとめる方向

3) 委員会設置の手続き

第二部に分科会を立ち上げる方法や、これと並行して横断的な課題別委員会を立ち上げる方法も考えられた。

しかし、結論としては、本準備委員会に参加した第二部の会員を中核として、第一部2名程度、第三部では萩田会員の他に一名程度の委員を追加したメンバーで構成する課題別委員会を幹事会・役員会に提案したい。第一部からのメンバーでは井伊雅子会員（一橋大学国際・公共政策大学院教授）にご相談する（適任者がいれば、ご推薦をお願いします）。

また、センチネリアンの委員会は、スコープが長いものであり、比較的、短期間の数年以内のオレンジプランの施行を前提とする本委員会との合同は少し難がある。従って、本委員会は、これとは別に組織した方が良い。

以上を寶金会員から、石川部長に報告し、具体的に、分野横断的、課題別委員会の設置の手続きを進める。

作成者 寶金清博